

11601電気業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	起因物 (小)	労働 者規 模
1	2017	12	8~9	営業所構内にて、社有車の運行前点検後、執務室に戻るため、屋外階段を上ろうとしたところ、階段の二段目で左足のつま先が下に滑り、転倒した際に左大腿骨転子部を骨折した。	43	2	413	50~ 99
2	2017	11	10~ 11	作業場所において、高圧応急用電源車のケーブル取り付け作業時に、高所作業車のバケットを被災者が上昇させた。その際、近くを通る33kv送電線に接近し感電した。	37	13	351	50~ 99
3	2017	10	15~ 16	外柵フェンスが台風の影響で傾いていたため、基礎部分の土を足で踏み固めていた。踏み固めが終わったので戻ろうとした時、右足を側溝に踏み外し、転倒しないように踏ん張った左足のアキレス腱を負傷した。	59	19	418	1~9
4	2017	8	10~ 11	執務室内にて、電話対応しながら自席へ移動しようとした際、隣席椅子の脚に躓き転倒し負傷した。	44	2	391	100 ~ 299
5	2017	7	11~12	現場において、変圧器の保守作業を実施。作業完了後、高所作業車のアウトリガを格納したところ、道路傾斜により、車両が前に動き出した。ブレーキにて停車をさせようと考え、運転席へ向かったところ、アウトリガと接触し受傷した。	37	6	146	50~ 99
6	2017	1	7~8	通勤途上、事業所構内において凍結路面で右足が滑り、転倒を防ごうとして右足を捻り、右足首を骨折した。	50	19	921	—
7	2016	11	10~	構内駐車場へ通勤車両を駐車し、車両から降りて歩き始めた際、軸足（右足）が滑り転倒しそうになった。そこで転倒を避	44	19	921	500 ~

			11	けるため、無理な体勢で逆足（左足）を地面に着いたところ、左足の膝関節に体重がかかり負傷した。					999
8	2016	11	13～ 14	単独で配電線の巡視業務に従事していた。巡視中に発見した支線ガードずれを改修後、土手を登ろうと左足で踏ん張った際に左足首を捻った。	54	19	711		50～ 99
9	2016	10	11～ 12	出張し業務として復興推進活動にあっていた。図書室の片づけを実施中に本棚の最下部に本を並べる為にしゃがんだ際、左腰に痛みを覚えた。	46	19	529		1～9
10	2016	8	13～ 14	現場調査終了後、事務所へ戻るため国道を走行中、突然後方から衝突された。	52	17	231		50～ 99
11	2016	8	13～ 14	現場調査終了後、事務所へ戻るため国道を走行中、突然後方から衝突された。	22	17	231		50～ 99
12	2016	8	9～ 10	従業員2名と山間部で送電線下の支障木の伐採範囲を調査していた。伐採樹木と送電線の位置関係を確認するため、送電線を見上げて、一步、後退したところ、生い茂った草で、斜面が見えなかったため、足を踏み外し、約30m下まで滑落した。	44	1	711		50～ 99
13	2016	8	0～1	長年、発電設備の運転巡視、点検及び補修工事監理ならびに発電設備の建設工事業務に従事し、石綿含有製品である配管保温材等の加工現場にて飛散した石綿粉じんの間接的にばく露した。	84	90	911		1～9
14	2016	8	10～ 11	同僚2名と原子炉建屋内代替給水ホース配備に伴い、原子炉建屋機器搬入口に向い、うち1名とホース等の運搬用に使用するキャスター付きのパレターナ2基を原子炉建屋機器搬入口にて運搬トラックから受取り、保管場所に持ち運ぶ作業を実施した際に、ぶつけてはいないが膝に負担がかかり痛めた。	25	19	379		500 ～ 999
15	2016	6	8～9	バスから降りる際に、バスの乗降口が狭いため、手荷物を両手で前に持った状態でステップを降りた時、左足つま先が地面に	45	3	231		300 ～



23	2014	7	15～ 16	全日本社会人ハンドボール選手権大会にて、相手と接触した際、右足を強く踏み込んだ際に、右膝軟骨を損傷した。	24	19	921	500 ～ 999
24	2014	6	17～ 18	山すその斜面を登り、現場確認作業を行った。作業を終え、斜面を降りる際に、草むらにあった鹿よけネットにつまずき、道路まで降りた所で、左肩から転倒強打し受傷したものの。	49	2	711	100 ～ 299
25	2014	6	14～ 15	土手の中腹から竹2本が高圧線を覆っていたために伐採作業を行い、同じ径間でもう1本竹が高圧線に接近していたことから、その場所へ移動中に急に大量の蜂(種類不明)が茂みから飛び出してきて、避けようとした際に足元が滑り、高さ約3mのコンクリート擁壁下の道路へ左足踵から落ちた。	44	1	418	100 ～ 299
26	2014	5	20～ 21	出張先ホテルにて飲食・飲酒後、2階の部屋から1階の自動販売機まで向かう際、階段にて右足が滑り、足首をひねった。	25	1	413	50～ 99
27	2014	3	0～1	巡視点検時の開閉所での電力積算計の読取後、鍵を閉め振り返りながら降りた瞬間、6段ある階段を踏み外し左足踵を負傷した。	60	1	413	10～ 29
28	2014	3	21～ 22	一日500～600枚ほどの資料のホッチキスとめの作業をしていたところ、両手親指の付け根から手首にかけて痛みを生じた。	52	19	921	100 ～ 299
29	2014	2	9～ 10	会社で実施された健康診断の再検査の採血検査で、1回目を左腕で、2回目を右腕で行ったが採血できず、3回目左腕から採血できたが、採血後の注射跡が腫れ、左腕の違和感と左指先までの痺れがとれず病院を受診した。	38	8	379	100 ～ 299
30	2014	2	8～9	雪害応援のため車両で特別巡視に従事のため、車両を発進させようとしたが路面凍結によりスリップした。タイヤチェーン取り付けのため同僚2名と車両左側後方から押したが右側後輪がスリップして進まなかったため、右側から押すため右側へ移動しようとした際、左足を滑らせ両足が浮いた状態で左横向きに	42	2	719	100 ～ 299

				転倒し負傷した。				
31	2014	2	10～ 11	建屋入口の階段を下りる際、3段の階段を降りる時、下から1段目で足を滑らせ左足を骨折した。	44	1	413	10～ 29
32	2014	1	10～ 11	お客様工場のコンプレッサ室において、省エネ診断中、換気ファン（地上高1.8m）の排気状況を確認するため、ファンに左手をかざしたところ左手がファンに接触し左手小指を負傷した。	52	7	391	300 ～ 499
33	2013	7	14～ 15	ツタ伐採作業のため、造林鎌を使用し電柱に巻付いたツタを除去作業中、傾斜地を下り、平らな場所より用水路を渡ろうと足を擁壁にかけた際、足首に違和感を感じた。	37	19	418	100 ～ 299
34	2013	5	15～ 16	横断歩道前にて、停止していたところ、後方から後続車に追突された。	46	17	231	50～ 99
35	2013	5	9～ 10	高圧本線を輪切りにした際、誤って添えていた手の親指を切創した。	24	8	364	100 ～ 299
36	2013	5	10～ 11	排煙用開口部へ落下させ、フロッピーディスクを拾おうとした際、棚の内側に入り、床にある排煙用開口部のプラスチック製仕切りに乗ったところ、板が破損し、約3.8m下の2階廊下へ転落。頭部打撲と第一腰椎、骨盤を骨折した。	41	1	418	50～ 99
37	2013	2	14～ 15	クヌギの伐採作業を行っていた際、伐採木が被災者の顔面を直撃。胸部が下敷きとなった。	45	4	712	1～9
38	2013	2	13～ 14	工事完了検査のため、池内にゴムボートで乗船し、張ったロープを手操り、右岸から河川中央に移動中、落下した。	56	10	713	100 ～ 299
39	2013	1	15～ 16	山間部での特別巡視に従事。目標の電柱に向かって下草刈用の長柄ガマを手に持ち、徒歩で移動していた。巡視経路にあった法面（赤土）を降りていた際（高さ1.5m程度）、滑ったた	53	1	711	100 ～ 299



47	2012	7	16～ 17	研修センターの階段にて、最上段から1段目を降りようとした際、誤って足を踏み外し、バランスが崩し、負傷した。	25	1	413	100 ～ 299
48	2012	6	1～2	短絡故障個所を細部にわたり確認しようとして脚立を使い、キュービクルに昇ろうとしたところ、誤って主母線に触れ感電し、脚立から落下した。	47	13	352	30～ 49
49	2012	4	20～ 21	強風、降雨の中、徒歩で移動中、足を踏み外し、道路脇の水路に転落。負傷した。	43	1	418	30～ 49
50	2012	3	15～ 16	客宅訪問のため、社有車を運転中、交差点で相手方車両と衝突し、負傷した。	52	17	231	100 ～ 299
51	2012	2	16～ 17	被災者の駐車位置が他の客に迷惑がかかる場所だったため、加害者が車両の移動を指示したところ、被災者の後方確認不足により、加害者が轢かれそうになった。その後、加害者は被災者に対して直前に指示していた事業所へ作業完了の連絡状況を確認したところ、自分の指示どおりに対応していなかったことに激怒し、平手で被災者の顎を殴り骨折に至った。	24	90	719	100 ～ 299
52	2012	2	12～ 13	現地での作業を終え、高所作業車で帰社した。後片づけのため、高所作業車の荷台に上がりバケットにカバーを取りつけた後、荷台から降りていた途中で転倒し、地面に倒れ、頭部を強打した。地面に倒れた状態で発見されたこと、本人は倒れた時の記憶がないことから、詳細な発生状況、原因は不明である。	21	1	146	100 ～ 299
53	2012	1	13～ 14	電気ポットのお湯を別のポットに移すため、湯量を確認しようと傾けた際、ポットが手前に倒れ、腕と足にお湯がかかり、火傷した。	31	11	391	50～ 99
54	2012	1	18～ 19	客への訪問を終え、会社の自動車を利用し、国道を走行中、赤信号により渋滞していたため、前の自動車より約3mの車間距離を保って停止していたところ、自動車(約40km/h)に衝	51	17	231	100 ～

				突され、負傷した。				299
55	2011	7	13～ 14	A発電所B5水車室（1号発電機－2号発電機間）で、充水ポンプ分解用品であるポンプケーシングを起立状態でパレット台車に乗せて移動中、（進行内側へ）、起立したポンプケーシングが倒れないように3人で押えていたが、パレット台車引き込み操作の反動により被災者側へポンプケーシングが倒れ、被災者は左太腿から足首にかけてポンプケーシングに挟まれた。	19	7	521	10～ 29
56	2011	7	10～ 11	徒歩で山中の設備（送電鉄塔）のD脚に到着。被災者はA脚へ、同行者はC脚へ設備のチェックに向かったところ、草むらにいた熊に遭遇し、D脚方向に逃げたが、襲われかまれた。	52	6	719	30～ 49
57	2011	6	10～ 11	訓練場において、新入社員教育による電柱（木柱）の昇降柱訓練中、地上4mの位置で胴綱を上げようとした際に、昇柱器右側のツメが外れ体勢を崩し、左足から尻もちをつくように墜落した。	18	1	418	100 ～ 299
58	2011	5	10～ 11	A市内において特高電線張替工事に伴う事前切替工事のため、電気室内に設置してある真空開閉器にて検相作業を開始した。検相中にアークが発生し受傷した。	32	11	352	100 ～ 299
59	2011	4	10～ 11	A市Bビルにおいて、お客さまからの電気供給申し出により、計量器を取り付け作業中、誤って計量器端子部で短絡状態となり、そのアークにより熱傷を負った。	21	11	352	300 ～ 499
60	2011	1	8～9	バスが発電所正門から構内に入り、事務所前に到着したため、降車したところ、凍結していた路面で足を滑らせ転倒し左足を負傷した。	29	2	719	500 ～ 999
61	2010	12	6～7	硫酸希釈タンクレベル高低警報ランプ点灯により、A出口弁を閉止するため、防液堤内に入ったところ硫酸が留まっており両足に化学熱傷を負った。	25	12	514	100 ～ 299
				燃料ガス圧縮機の吸入フィルター清掃の準備作業としてページ				



62	2010	12	10～ 11	用のスチームホース接続のため仮設足場の足場パイプのへりに片足を掛けて当該ホースを持ち上げた時足を滑らせて約1m下に転落し右手首を骨折した	46	1	411	10～ 29
63	2010	11	13～ 14	平成22年11月2日(火)13時20分頃、A市内の歯科医院において、電圧調査依頼を受けて当社従業員2名で対応した。電圧の測定等を行うとともに歯科医院の設備である殺菌装置を調査した際、当事者は殺菌灯が点灯した状態で10分程度直視した。作業を終了した段階では特に異常を感じなかったが、帰宅後の翌11月3日(水)1時30分頃、就寝中に両目の痛みを感じ、大きく腫れあがったため、夜間救急にて診療を受けた。同3日13時20分頃、眼科医院にて精密検査を受けたところ、殺菌灯を直視したことによる電気性眼炎と診断された。	36	12	514	100 ～ 299
64	2010	11	14～ 15	A発電所敷地内の冷却水槽上での警報試験が終了し、次の作業のため点検用梯子を降りている際、霧雨で梯子が濡れていて片足が滑り、片手に無線機を持っていたことから、確実な3点支持が出来ずに地上約2.5m付近から落下し、骨折した。	26	1	371	10～ 29
65	2010	9	10～ 11	A結婚式場のキュービクル内トランス入替えの見積をするため、一人で屋外キュービクルの現地調査を行っていた。扉を開放しキュービクル内のスケッチ終了後、詳細を確認するため、右手で中央のドアの縁を持ち、頭を覗けた瞬間、右顔面上部から感電をした。(LBSのアクリルカバーの止めが不十分のため、振り向いた瞬間、汗をかいたもみ上げとLBSの充電部端子との間でリークしたものと思われる)	59	13	352	10～ 29
66	2010	2	14～ 15	作業で使用した試験器材(約40kg)を保管場所である倉庫へ台車にて運搬後、所定位置へ移動(約1m)させる際、一人で器材を移動(持ち上げようとした行為)しようとしたため、腰へ多大な負担が掛かり、腰を痛めた。	36	19	921	300 ～ 499
				変電所階段室非常灯取替作業時、支持されていない梯子を昇り				

67	2010	2	11~ 12	蛍光灯を取り外した際にバランスを崩し、壁に掛かった梯子の先端が下方へずれ、踊り場へ落ちてから階段をすべり落ちて負傷した。	58	1	371	300 ~ 499
68	2010	1	11~ 12	1階リフレッシュルーム備え付けの地域広報誌を取り替えるため広報誌を右手に持ち3階から1階へ移動していた。3階から2階への階段を降りる際に、体勢を崩し、咄嗟に右手で手すりに捕まると同時に左足で踏ん張り、尻もちをついた。踏ん張った際に左足首をひねり、痛みを感じたため救急外来にて診察を受けた。	52	2	413	100 ~ 299
69	2009	11	9~ 10	屋外機器操作のため現地に向っている途中、作業中のクレーン車に気を取られていたため、建屋出入り口のトラフと地面の段差（31.5cm）に足を取られて転倒した。その際、左足をひねって足指を骨折した。	47	2	417	50~ 99
70	2009	9	18~ 19	出張先より徒歩にて帰宅中（歩行者通行帯を歩行）、後方から来た車両に追突され、左足首を骨折した。	41	17	231	500 ~ 999
71	2009	8	11~ 12	作業現場（カズラ伐採）に行こうとしていた。現場の手前に金網フェンス（高さ1.3m）があり、更にその手前20mの所に大型U字溝（幅1.4m、深さ1.4m）があって、これら乗り越えようとした。左手で樹木（フェンス手前、直径約5cm）を掴み、U字溝を跨いで左足で着地した時、左足が滑ってU字溝の中にしゃがんだ状態で転落した。その際、腰を強打して骨折した。	20	1	418	100 ~ 299
72	2009	7	12~ 13	発電所サービスビルの自分の席で、パソコンの配線作業を立っただまま前かがみの状態で実施した際、突然、腰に痛みが走り、動けなくなった。	30	19	921	100 ~ 299
				発電所のタービン室において、道工具置場の片付け作業中、床				100

73	2009	5	11～ 12	面に置かれていた電工ドラムの片付けが終わり、立ち上がろうとした時、仮設の吊り上げ装置の鋼管パイプで頭部を打ち、仰向けに倒れた。	39	3	521	～ 299
74	2009	4	9～ 10	現場で桧の枝切り作業中、左手で2cmの小枝を持ち、右手のチェーンソーで枝の根元付近を切る際、チェーンソーがキックバックを起こし、刃先が左腕に接触、負傷した。	51	8	136	30～ 49
75	2009	1	9～ 10	工務店事務所へ到着後、車を降り玄関入口手前の駐車スペース内の日影で、雪どけ水が凍っていたアスファルトで、転倒し受傷した。	38	2	417	100 ～ 299
76	2009	1	8～9	発電所の変圧器故障に伴う機器状態の確認のため、3名で300m離れた発電所に向かい徒歩で出発した。20m位進んだ下り坂の除雪直後の鏡面状凍結路面で先頭者が片足を滑らせ転倒して、足を骨折した。	40	2	417	50～ 99
77	2008	12	11～ 12	調査測量の為、送電線の鉄塔から鉄塔へ移動する際、斜面より足を滑らせ、約20m滑落した。	53	1	711	100 ～ 299
78	2008	8	14～ 15	家屋の計器検針後、検針票をポストに投函すべく、徒歩で表に回り入口近くに来た時、家人が自転車を出す為門扉を開けた。すると突然、犬が飛び出して来て、咬み付いた。	35	90	911	50～ 99
79	2008	7	11～ 12	機器の試験装置（15kg程度）を運搬し、降ろそうとした時、腰を負傷した。	39	19	921	100 ～ 299
80	2008	6	15～ 16	構内の作業場へ軽トラックで向かっていたところ、右前方にある架台支柱（H鋼）に気付かずそのまま直進し、軽トラックの右前方が架台支柱に衝突した。	53	3	221	30～ 49
81	2008	5	16～ 17	帰社途中、知人とすれ違い、振り向いて会釈し、前を向き再び歩き出したところ、石畳の段差に躓いて転び、右腕を強打し	40	2	417	1000 ～

				た。				9999
82	2008	4	14～ 15	出張先で業務を終えて次の出張先に向かう為、駅構内の下りエスカレーターに乗っていたところ、電車がホームに入ってきた為エスカレーター残り1/3程度の所から歩き出そうと踏み出した際、躓き転倒し、顔を打ちつけ骨折・負傷した。	48	1	419	300 ～ 499
83	2008	3	19～ 20	故障対応に於いて、電線ヒューズの状況を確認するため昇柱を開始した。途中、地上6m付近の他社弱電ケーブルを回避するため補助ロープを取り付け、胴網を外した後、同ケーブルのバンド突起部分に右足を乗せ、体重をかけたところ、右膝に痛みを感じた。	34	19	921	50～ 99
84	2008	3	8～9	歩行者用信号機のある交差点が青信号になった為渡り始めたところ、縁石と道路の段差にて右足を捻った。	37	19	417	300 ～ 499
85	2008	2	11～ 12	本人は検針・集金業務を終え、帰社するため当該交差点手前の一方通行道路をバイクで走行していた。当該交差点の信号「青」を確認し、交差点に進入した。中央付近を過ぎたところで相手方車両と衝突した。	52	17	231	100 ～ 299
86	2008	2	14～ 15	撤去柱の移動準備をしようとして再び電線を繰り出そうとした際、誤って右腕を巻取ドラムの内側から伸ばし、レバー巻側に操作した事により、ドラムのスポークと操作レバー本体外箱に右腕を挟み負傷した。（ドラムの内側から腕を入れてしまったかは記憶がない）	33	7	149	100 ～ 299
87	2008	2	11～ 12	事業場構内にて不要パンフレットを詰め込んだ段ボール箱を車両の荷台に載せようとしたところ、既に荷台前方に置いてあった段ボール箱が支障となったため、それを奥の方に押し込もうとして力をいれたところ右肩に痛みを感じた。	54	19	611	10～ 29
				当日、被災者は一人で構内の資材倉庫内の整理に従事していた。被災者は、立掛けていたコンクリート柱用地際補強板を床				

88	2008	1	14～ 15	に移動しようとしたところ、補強板のバランスが崩れ、支えきれず補強板の下敷きになり、体を負傷した。（4～5枚）（補強板16.9kg/1枚）	31	5	523	50～ 99
89	2007	11	13～ 14	客訪問のため車で走行中、左に並走していた他車の動向に気を取られ、前方を向いた際、右折のため徐行していた車を発見した。本人はとっさにハンドルを右に切ったが車の後部に接触後、対向車線に飛び出し、前方から直進してきた車の右前部と衝突し負傷した。	43	17	231	100 ～ 299
90	2007	11	15～ 16	事務所内において執務中、尿意をもよおしトイレに行くため席を立った。事務所2階の湯沸室入口付近を通ったところ、床が水で濡れていたため足が滑り転倒した。足に痛みを感じ立つことも歩くことも出来ず、足及び臀部を負傷した。	51	2	417	30～ 49
91	2007	11	15～ 16	会議出席のため、業務車を運転中、交差点にさしかかり、赤信号のため先頭から3台目で停車していたところ、後方から来た車両に追突され、負傷した。	58	17	231	300 ～ 499
92	2007	10	9～ 10	検針を完了し、マンション敷地内出入口で安全確認のため、上半身を道路側に傾けた時、南から北へ歩行者専用路側帯を猛スピードで走行してきた自転車と接触した。その時に、検診カバンの一部が自転車に引掛かり、2～3m引きずられ負傷した。	53	17	239	50～ 99
93	2007	10	17～ 18	分譲地イベント会場の現場視察のため、同僚とともに、車両で出向した。海上敷地入口の門の手前に車両を止め、門を開けた。車両に戻ろうと小走りで移動した際、小石を踏みつけ、足を負傷した。	34	3	513	500 ～ 999
94	2007	10	16～ 17	被災者は発電所での草刈り作業を終了し、後片付け中、作業中に使用した除虫スプレーを構内に置き忘れていたのに気づき、屈みこんで同スプレーを取った後、すぐ後ろのコンクリートピットの淵（段差65mm）に躓き、右斜め後方から同コンク	78	2	417	1～9

				リートピット内に転倒し、足を負傷した。				
95	2007	9	12～ 13	山中の倒木撤去作業現場で、根崩れによる倒木を切断中、根元付近の側部からチェーンソーの刃を入れ、切断した瞬間、切断部がずれ落ちて、足に当たり、負傷した。	59	4	712	50～ 99
96	2007	8	18～ 19	被災者は1人でお客の申し出により計器工事に従事していた。計器が床より20cmの位置に設置しており、体の右側部を床につけた状態で、防災面及び低圧ゴム手袋を着用し、計器の2次側を3線とも接続した。計器の2次側接続後、電圧を確認しようとしたが、防災面が被災者の息で曇り、視界が悪くなっていたため、防災面を外した。携帯用電圧計を作業着の左胸ポケットに入れていたため、低圧ゴム手袋をしたままでは取り出しが難しかったので、右手の低圧ゴム手袋を外して、携帯用電圧計を取り出した。防災面及び手側の低圧ゴム手袋を外した状態で計器端子の2次側で、電圧確認しようとした際、突然、計器からアークが出て負傷した。	58	13	352	50～ 99
97	2007	7	16～ 17	被災者は当日の勤務を終え、帰宅のため、2階から1階への階段途中の踊り場から下の段へ降りようとしたとき、下から上がってくる人がいたので、階段の左端へ寄ろうと右足を降ろした際に、足首をひねり、バランスを失い、3～4段滑り落ち、負傷した。	32	1	413	100 ～ 299
98	2007	6	11～ 12	顧客の依頼を受け、会社を出発し、客宅へ向かうため、片側二車線道路を走行した。当該交差点の青信号を確認し通過する際、信号無視で左方向から交差点に進入してきた車両を避けようとブレーキとハンドル操作で回避したが、車両の左中央側面に衝突された。更にグリーンベルトの縁石及び標識ポールに激突し、横転して負傷した。	25	17	231	300 ～ 499
				研修を終え、帰宅するため、バイパスを走行。右折するため、右側レーンへ進入したところ前方の信号機が赤であったため、				

99	2007	5	16~ 17	停止線の手前で停止した。前方信号が赤で、右折の矢印に変わり、左側の直進車両が停止したのを確認した上で、交差点へ進入し、右折しようとしたところ、対向車が信号無視で交差点に進入してきたため、ブレーキをかけようとしたが避けきれず、衝突、負傷した。	37	17	231	50~ 99
100	2007	5	9~ 10	点検保守現場でブレーキディスクを手で掴み風車のハブを回転させていた際に、指をブレーキディスクとブレーキキャリパの間に挟まれた。	27	7	111	30~ 49

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。